

日本郵政株式会社 広島通信病院

井上 純一



はじめに

広島通信病院は、日本郵政グループの企業立病院として全国に14か所ある通信病院の1つです。通信病院では日本郵政グループの社員やその家族だけでなく、どなたでもご利用いただける病院として地域の皆さまの健康に貢献する医療サービスを行っています。

広島通信病院は、広島駅から西に1.8キロ、広島電鉄白島線「家庭裁判所前」電停から徒歩2分のところに位置し、繁華街まで歩いて15分です。また、近くには広島城址、縮景園（広島藩主の庭園）及び広島県立美術館などがあり、市街地にありながら緑と文化に囲まれた静かな環境が整っています。

病院の沿革

当院は、大正11年5月に通信省の附属機関、名称を「広島通信診療所」として広島市西地方町134番地（現在の広島市中区土橋町）に設置、当時は内科と外科の2診療科での発足でした。その後、昭和10年12月に広島市基町6番地（現在地）に新築移転、

昭和17年11月に「広島通信病院」の名称へ変更となりました。

昭和20年8月6日原爆投下により、病院の建物設備は半焼破壊（職員48名のうち死傷者が37名）となりました。しかし、焼け残った病院には多くの被爆負傷者が押し寄せ、医療設備等不足する中、献身的な救護活動に当たりました。当時の様子は蜂谷道彦院長の被爆記録「ヒロシマ日記」に詳細に語られています。併せて「ヒロシマ日記」は世界十数カ国語に翻訳され出版されました。また、被爆した建物は広島市の要請もあり保存することとし、一部を被爆資料室として一般に公開しています。

昭和55年12月、それまで通信病院は郵政省の職域病院でしたが、広島通信病院は全国の通信病院に先がけて保険医療機関の指定を受け、地域医療へ貢献する病院として一般開放しました。その後、郵政事業庁、日本郵政公社を経て日本郵政株式会社附属施設として現在に至っています。

現在の建物については、病棟を含む本館が平成6年4月、外来棟が平成8年2月にそれぞれ改修工事を終え、同年10月にリハビリ棟を増築し

ました。本館1階ホールは明るいガラス張りの吹き抜け構造とし、病棟部分には患者食堂、デイルーム、5階にはサンルームを設け、単調になりがちな入院生活にうるおいを与えられるよう配慮しています。

病院概要と特徴

当院の理念として、「私たち広島通信病院は、地域及び職域から親しまれ、信頼される医療サービスを提供することをめざす。」を掲げています。

また、基本方針として①患者さま第一の視点で、満足される医療サービスの提供に努める。②新しい医療技術の修得、充実したチーム医療で信頼される質の高い医療サービスを提供する。③地域及び職域から頼りにされる病院として、病診連携に努め経営基盤を強化する。④職員は患者さまサービス向上に向けて研鑽し、自らの成長と患者さまの満足を共有できる医療環境を創る。以上の4点を定めています。

外来診療科は内科、外科、産婦人科、小児科、眼科及び整形外科の6科と人間ドックで病床数は110床、スタッフは医師19名、看護師102名、薬剤師7名、医療技術者16名、その他14名の総数158名です。各診療科において、内科は肝疾患（ウイルス性肝疾患、自己免疫性肝疾患、肝臓）や消化器疾患（IBDや大腸ポリープ）、呼吸器疾患（各種肺感染症や喘息、COPD、SAS）、循環器疾患（弁膜症疾患や心不全）、糖尿病を治療の対象としています。外科は下肢静脈瘤、乳癌を、産婦人科は分娩、特に帝王切開を、小児科は急性感染症や各種ワクチン接種を、眼科は白内障手術を、整形外科は外傷、特に手の外科を特徴としています。

来院された方が「心あたかな病院」と感じていただくよう、清潔な施設、心のこもった接遇、分かりやすい案内などに配慮しています。

また、全てのスタッフは「高いレベルの医療技術による安心・安全な医療の提供」、「分かりやすい説明」、「笑顔での応対」ということに心がけています。医療サービスの評価を把握するため、年2回患者さまアンケートを実施し、また、「患者さまの声（投書箱）」へいただいた意見には迅速に対応することとしています。

病診連携の一環として昭和63年9月から病院周辺の開業医の先生方と始めた合同カンファレンスも毎月定例のものとして現在まで続いており通算345回を数えることとなりました。

医療機器等の設備面においては、近年オーダリングシステムを導入し効率的に業務を行うこととし、新たにCT（16列）及び、MRI（1.5T）の更改等も行いました。より詳細な検査・診断を可能にし、患者サービスの向上に努めています。

平成19年4月に病院機能評価（ver. 4）の認定を取得し、その更新時期を控え新たに病院機能評価（ver. 6）の認定取得に現在取り組んでいるところです。毎月2回経営委員会を開催し病院の経営分析と改善の取組みも行っています。

将来展望

病床数100前後の中規模病院が存続していくには非常に厳しい医療環

境となっていますが、合同カンファレンス等で情報交換を行っている地域の開業医の先生方とともに、地域に密着し地元住民のニーズに合わせた診療を行っていくこととし、また近隣には大規模病院もあることから、病診・病病連携における中間的役割を果たす病院として充実発展させていくこととしています。そのことが地域全体の医療の質の向上の一助となればと考えています。

平成22年8月受理
〒730-8798 広島市中区東白町島町19-16
電話：082-224-5350 FAX：082-223-5083
<http://www.hospital.japanpost.jp/hiroshima/>